

1. 活動報告（事務局 記）

—8月1日（土） 「フジときららネットこどもエコクラブ」、(子供9名。スタッフ十数名)で、午前中は“ため池および草原水路”のエコアップ、昼からは須賀河内川下流域の水遊びや水生生物捕獲で自然環境学習と遊びに満喫されました。本会より講師として“原田、原谷、寺本、前田”、会員参加として“松本”が参加しました。

—8月2日（日） 維持活動として以下の活動を行いました。

① 厚東中学校生徒のボランティア活動

伊達教頭先生のご指導の元、生徒25名で、田んぼの除草、および水路の清掃をしていただきました。生徒数の1/3以上参加頂いたことと、若い力に日々感激いたしました。今後もビオトープや自然を愛し、ご協力ください。

② 会員による維持活動

参加会員（16名）により、水路周辺を中心に除草を行いました。なお女性会員は、作業後に実施したソーメン流しの準備をしました。

③ 親子自然観察隊（8月8日）の準備—1

親子自然観察隊で実施される川登の事前調査として、午後から会員3名が須賀河内川の清掃を行いました。

親子自然観察隊（8月8日）の準備—2

夕方、原田事務局員が、東屋内外・倉庫周辺の草刈りやトイレの清掃などを行いました。

—8月8日（土）親子自然観察隊は水棲動物観察・須賀河内川でした。参加は、子8名と1名（岡村さん孫）に親5名、山大工学部学生9名の応援、会員13名です。子供たちは全員、須賀河内川を登って清瀬峡まで楽しく網を使って色々な生き物を捕まえました。東屋に帰って、ワナも回収し、今日捕まえた生き物を確認して、川に返してやりました。冷たいお茶とスイカを食べて、皆喜びながら帰っていきました。

—8月17日（月） 非定常作業のお知らせ（東屋周囲や倉庫周囲の草刈り・田んぼ周囲の電気柵下漏電防止のため草刈り・駐車場北側草刈・草原の刈った葦の焼却等）

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

◎行 事

—9月6日（日）維持活動・草刈り

—9月12日（土）親子自然観察隊（秋の昆虫）

3. 来訪者の声

今月はありません。

4. 会員の声【 親子自然観察隊に参加して 】

会員になって2年目、前年度は行けず仕舞いだった里山の水棲生物調査へ初参加しました。真夏でも思いの外水が冷たく、滑りやすい石もありましたが、無事怪我なくドンコ等の川魚や水辺まで寄ってきていたオニヤンマを捕まえたりと、里山独特の夏を子どもたちと一緒に楽しむことができました。(中村 恵海香)

今年度に入ってからより多くの学生が参加してくれるようになりました。私も学生の立場として同年代が増えることは嬉しいですし、学生も活動を貴重な機会ととらえて参加してくれることに嬉しく思っています。親子観察隊の子どもたちも大学生と遊ぶことができそうです。今後もビオトープと学生の繋がりを大事にして行けたらいいな、と思います。(平林 千春)

足を川の水へつけると、身体が冷えてしまうくらい冷たかったです。最初は何も生き物がないと言っていた子供たちですが、川を上っていくに連れて生き物を上手に網で捕まえて、どんどん私の持っているケースが重くなっていきました。最後の自由時間では子供たちが飛び込みをしていて、とても面白そうでした。時間があっという間に過ぎてすぐに自由時間がなくなってしまったと感じました。(阿部 真希子)

5. 親子自然観察隊 「水棲動物観察・須賀河内川」(関根 雅彦 記)

8月8日は水棲生物の観察。猛暑が続き、絶好の川登り日よりです。観察隊の子供8人はヘルメットとライフジャケットを装着し、サポートのつくる会会員、保護者、山口大学学生達とともに、東屋横から須賀河内川に入ります。気温の高さとは対照的に、水はまだ冷たく、子供たちから悲鳴があがります。ビオトープのすぐ上流の、木陰の溪流っぽい場所で早速ヨシノボリをGet。あんまり簡単に捕れたものだから、ここでは惜しげもなく逃がしてしまいました。(これが間違い。今回はほとんどゴール近くまでヨシノボリが捕れなかったのです。)子供たちは水の冷たさと茂るヨシにやや萎縮したまま最初の関門の堰に到着。いよいよ水に半身浸からないと進めません。ひとしきり喚声をあげて突破するころには固さもとれ、元気に魚をとりながら前進。でも、ヌマエビ、スジエビ、カワムツやヤゴ以外のものはなかなか捕れません。父滝の滝壺では例年どおり投網を投げ、特大のカワムツとドンコが捕れました。大人でも四苦八苦する父滝を登り、母滝を越えていきます。母滝の上ではグンバイトンボが迎えてくれます。上流の渓流域に達しますが、やっぱりカワムツと稚魚ばかり。渓流域も半ばに差し掛かって、ようやく小さなヨシノボリが捕れました。小さな滝壺をいくつか越え、全員揃ってゴールです！なお、途中で採取したヤゴはコヤマトンボとハグロトンボだったそうです。

ビオトープに戻って、川登りの間に学生達が設置したワナを回収します。須賀河内川では、ビオトープ最下流部の淵で、ドンコとカワムツの他にイトモロコが数尾、東屋のすぐ下流の深みで大型のムギツクが1尾だけ捕れました。

ため池ゾーンでは、目視ではフナらしき魚影が見られたものの、ワナにかかった魚はありませんでした。そのほか、湿地～トンボ池横の須賀河内川でオヤニラミやモクズガニを見たという報告もありましたが、採取はできませんでした。また今年もシマドジョウを見かけませんでしたし、絶対いるはずのカマツカも捕れませんでした。残念です。

東屋に戻って捕れた魚を観察し、記録をとったあと、須賀河内川に戻してやりました。最後にみんなでスイカを食べて、楽しい観察を終えました。



ビオトープ横から川に入ります



父滝を登ります



母滝を登ります



清瀬峡ゴールで全員集合

親子自然観察隊の親子の感想

★永富花音

岩のところで水がシャワーみたいに勢いよく落ちていました。そこを歩くのが面白かったです。水が胸ぐらいある所はとても冷たかったけど、泳いでみたかったです。帰りも川を歩きたかったです。

★永富利津子（母）

岩場を登ったり、胸まで水に入ったりと、私達が想像（膝丈で魚観察）していたものとは違い、アクティブでとても楽しかったようです。

いつも貴重な体験をさせて頂きありがとうございます。m(_ _)m

6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 （管 哲郎 記）

(32) エゾトンボ *Somatochlora viridiaenea*

エゾトンボ科 Corduliidae

北方系のトンボのようで、北海道から九州まで生息していますが、県内でも近頃では温暖化のせいなのか、あまり姿が見られなくなりました。6月より9月にかけて湿地の多い開けた山間部や山に囲まれた水田近くの上空などでよくみられましたが、放棄田や休耕田が多くなり生息環境の減少などが原因ではないかとも思われます。

皆さんにはあまりなじみのないトンボです、湿地の上空や森の影の空間付近を飛翔するのてなかなかお目にかかることがないと思われませんが、たまに生息地付近を通る道路の上空をヒラヒラと飛翔したりすることがありますので、要注意です。そっくりサンに「エゾトンボ」「タカネトンボ」がいます。



エゾトンボ 雄



エゾトンボ 雌

7. 会よりの連絡事項

1. イナゴの大量発生への恐れあり。

毎夕涼しくなってビオトープに気分はらし、田んぼの水管理で周囲を回ると最近とみにイナゴが増えてきたと思われます。次回の活動日には全員によるイナゴ捕獲作戦を実施したかと考えます。全員で15分くらいあれば完了と考えます

2、駐車場からビオトープの間の市道に車の離合場所の設置を「つくる会」と「車地自治会」で27年度宇部市への要望事項項目として申請しました。見学者がビオトープに直接車で入ることが多くなっていて、農作業車とトラブルを起こさないためです。

8. 編集後記

今年の夏は暑いですね、皆様お身体大丈夫ですか？まだまだ熱中症対策が必要ですよ。
しかしその対策も少し如何な物かと最近ちょっと思ってます。先日、会社の熱中症対策のため、スポーツドリンク（名前は塩ジョイ）が配られ、そしてご自由にお取り下さいと塩飴が置かれています。社内を歩けば、「暑いね」の言葉と一緒に飴、ここでも「塩」の文字が…まさに塩のオンパレードです、気付けば、口の中がしょっぱく、水道水をがぶ飲みです。（宇部市の水道水美味しいですよ） そんな自分の朝食は、ご飯と減塩味噌汁です、なんだか複雑です… 先日の厚東中学校生徒のボランティア活動、参加者が多くて助かりましたね、小学校頃から知ってる顔もちらほら… 皆さん立派に成長されて頼もしいかったです。来年も待ってま〜す。

（ 若林 正治 記 ）